京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 [illegible]
月曜日及び祭日の翌日休刊（日刊）
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久静一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
仁川宮町三丁目 仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地 東京支局

史譚 臨終の奈破翁

山水道人

第七回

さてはいよ〳〵皇帝の最後？侍臣等が愕きの眼もて。打守りし危險なりし狀態は。幸ひに無事に經過しつ。吁。されど。落日再び天に回らず。刻々に日づき傾く日の。何れは西に落ちではやまじ。

皇帝は幾度が危機に瀕しつゝも。尚ほ留れる一脉の餘命に。末路の幸果敢なく享けつ。

今觀運の浪に墜ちたる皇帝に。投せられたる病の石は。或は快よく或は險しく。一揚一抑。その間多少の浮沈は示しつゝも。重きに落ちて輕きに回らず。昨日の輕快は今日に於て否定され今日の平穩も明日に於て信ぜられず。一步一步刻一刻。病勢は其最後に向つて移り行く。

斯くて數日を經ぬ。一日皇帝は。靜かに自己の臨終を想ひ望しつ。キリスト教信者としての最後の務めを果さむとて。天主教の僧侶ヴイエアリーを召しぬ。

世の未だ能くナポレオンを知らざる者は。殺伐精悍の彼にして。しかく敬虔なる信仰有りしかと怪る者あれど。英雄の一由來天才の性格に矛盾多く。威面亦小兒の如き天眞有るを想はゞ。感情の高潮なる彼に於て。一味の信仰心あるは怪しむに足らず。彼は實に個人としては臨終に至るまで極めて熱心なる信者なりし也。

皇帝はヴイエアリーに對つて徐ろに告げぬ。

「朕はカトリック教徒の家に生れ。カトリック教を奉じて今日に至れり。されば此際サクラメントを享けんと欲す願はくば今日黑撤祭を擧げ。尚は引き續き之を擧げむことを。而して朕の死後は總てカトリック教旨に據りて是を處理せよ」

命を了してヴイエアリーは退きぬ。皇帝は代りて伺候せし侍醫を迎へて。再び口を開きぬ。

「嗚。多謝す!!。卿は能く。朕が爲めに努めたり……日毎の配慮……さぞや疲勞も覺ゆらむ。朕が命既に旦夕に迫る!!こゝに生前卿に囑せし……そは朕死すとも!!ゆめ。英國醫をして診せしむる勿れ。朕の屍體に……その一指だも觸れしむる勿れ!!而して。朕が屍體は。卿親しく是を解剖せよ……胃の病源の研究終らば。遺骸はわが子の許へ送れ。而して……その心……幾度か破れなんとせし……この心臓を……探りてアルコールに漬し。彼のマリー、ルイザに遣れ!!而して朕がこの悲慘の生涯を終へ……冥府に入らひとする最後まで……わし!!瞬時も忘るゝ能はざりしをを告げよ……而して卿はキンナよりローマへ行き。朕が母公並に一族に見ゆ審さに朕が孤島に於ける生涯を傳へよや……。而してわれナポレオン、ボナパルドは。シーザー、ポンペイ等の大英雄が曾て遂げたる。慘憺たる悲壯の最後を遂げたりと告げよ!!……。」

●釜山魚港設計

釜山

魚港施設の第二期として將に竣成せんとする水產物輸出入場、競賣場其他新築工事概畧左の如し因に記す茲に第二期と稱せるは製氷所の建設せられしを假に第一期とせるものなり

▲總建坪六百三十六坪四合餘 ▲請負金額四萬圓、明治四十四年二月十二日起工、同年七月十五日に竣工の見込 ▲氷入出庫 七坪（千五百四十一圓） ▲事務室 十九坪五合（千三百八十四圓八十一錢） ▲錨置場 十五坪（七百二十四圓二十二錢） ▲仲買人貸付倉庫 九十坪（三千三百八十六圓） ▲渡り橋 五坪五合弱（百二圓二十錢） ▲港室雜貨店倶樂部 五十四坪（五千四百十四圓五十三錢） ▲浴室内蒸滊裝置及唧筒据付費（二百二十六圓） ▲宿舍 七十八坪（一萬二千〇三十四圓八十三錢八厘） ▲鹽倉庫 三十坪（千六百十圓六十六錢） ▲乾燥水產物庫 十五坪（九圓九十八圓五十一錢） ▲附屬便所 二坪五合（二百六十圓廿三錢一厘）

外事一束

▲警備 葡萄牙政府は王黨の北方攻擊に備へ大兵を北方に集中警戒を加へ居り。

▲摩國 問題は歐州列强の懸案となり獨國の派艦終に各國間の商議を可見。

▲傾向 を示し英國は獨國に摩國内の「港灣を讓與するに不同意を主張し。

▲英國 赤英國と兩機の主張に出で露國は獨國に摩國通牒の說明を要求す。

七月六日朝鮮王世子李垠殿下には上野孫齋奨勵會へ御臨場遊さる此は同會御着門の光榮なり

▲列國 の協定如何に落着すべきか茲暫く摩洛哥座の大芝居は見物なり。

▲英國 英蘭地方にては暑氣俄に增進し二三鑄鐵所は一時休業するに至る。

▲酷暑 合衆國は未曾有の酷熱を呈し全國を通じ六日間六百名の死者あり。

▲露國 は沿海黑龍州の軍備を四箇軍團に增加し烏蘇里鐵道改築の議あり。

▲條約 日英米露四國の海獸會議は八日華盛頓に於て條約調印濟となれり。

▲清國 政府は今回創立米消滊船會社に毎年十五萬兩の補助を交附せんと。

文苑

◎夏雲集（二）

○丸窓に片袖たれて物思へば柳葉裏の夕月細し

○我が爲に君もなくとや月落ちてなほ語れとや君なればこそ

○花鉄手にして休む青葉かげ妹が薄茶の殊によきかな

○氣強くはいひはなちても男心のぬるゝまつげを君知らずして

○やせ腕時には岩も砕く身の野の姫百合をやさしとは見つ

○百重山青葉の波をうちよせて心地よいかな胸毛ふく風

○胡笳の聲たゆるなんとして岩角にあやうく懸る三日月の影

○温突の軒低うして雨五日ポプラの小枝いたづらにのぶ

◎新刊紹介

△朝鮮家庭新聞（五十九號） 桂井浪子の「臺所の經濟は如何に立つるか」を始め家庭にわて必讀を要する有益多趣味の記事多し（週刊一部四錢京城長谷川町朝鮮家庭新聞社）

△富之研究（七月號）「僅々三年間に成功せる青年農業家」「未だ人の知らぬ雜誌廣告の利益」等致富の研究に資すべき記事を以て誌面を彌たす（一冊五錢東京市神田區錦町富の研究社）

△鑛業界（第二號） 鑛業界に於ける智識を普及せしめ且つ鑛業上の現狀を紹介せんとするが本誌の目的斯界に裨益を與ふるや言ふを俟たず（東京市深川區仲町三十五番鑛友社）

△新報知（第十號） 一讀雜誌の割合に內容の豊富讀むべきもの多きは本誌の特色とする所也（東京大崎停車場前新報社）

△精神新報 第八十號 [illegible]に研究せるもの也（一冊十錢東京芝區琴平町精神研究會）

△都會（七月號） 大阪市西區南堀江上通一丁目都會詩社より發行せる文學雜誌にして小說寫生文俳句等に見るべきもの多し体裁亦高雅なり（一冊十錢）

召使れ初

第百一回

黙法師

「ちと存ずる旨ござりまするで喃」と澤野は得意顔に「わ道どの彼方へ付かせられても、その兄の佐十郎は澤野手に屬いて居りまするで喃」

「身の肉を削いて、牢を御前に献じわるでござりまする喃」

「ま、左様な理でござります、たゞしれほゝ」と澤野は口をすぼめながら「その佐十郎一圖に立身出世を願ひ居りまするで、その心を利用、政姫様御爲めを謀ス思案でござります」

「わ道どのとは反對でござりまするの」

「わ道どのは右、佐十郎は左、御知行の彎きへ付けてあれば、何れへでも駛るる、馬見たほどの方でござります」

「その馬、わ前わ手にわ乘り鎭めなさせられるでござりまするな」

「私の手に!、それや什麽細導ござりますす」

「別個でもござりませぬ、佐十郎へ頼みのわ詞、政姫様御相續と定まらば何百石御加增のわ約束致さば、その餌に心を釣らるゝは知れてござります」

「ぢやが」と唐橋は目を光らせて「奥表の間には深い溝渠作られてござります、その溝を飛び越ゆるは容易の事ともござりませぬ、佐十郎に頼みの口上文して遣はすでござりまするかな」

「ひかなこと〳〵」と澤野は叱るやうに云ひ切り「わ文は人の目に觸れまする、後々證據に成るやうの物を遣はされるは天に對つて唾するも同樣でござりまするわの」

「さらば什麽として消息するぢやの」

「その邊も御安堵、御當家わ奥のことは大小漏れなく、その手に握りあるでござりまするで、佐十郎を呉服商人、又はわ狂言師帷子方などに扮打たせわ切手の間へ伴れ參るでござりまするわの」

「そ、御前わ手心で奥殿へわ伴れなるでござりまするかな」

「それほどの事、何の仔細でござりませぬ」

「さらばその手都合を頼みにして、佐十郎どのへは何事を頼ひ上ぐるでござりまするな」

「今も申す、政姫様に加擔の事、くれ〳〵わ頼みなさるでござります斯様の大事は奥向ばかりで、氣を揉み焦慮致すよりも、わ表の中に然るべき加擔人を得るが肝要、私それを存じまするで、佐十郎を推擧、重い恩を被せ置いたでござります」

「万事は澤野どのに打明けあるで、澤野どの同心、政姫様御行末、何分とも頼み入ると、それを云へば好いでござりまするな」

「その語尾に肝要なことござります、政姫様御相續の上は、五百石御加增、御側御用人にわ引き上げのわ約束、との詞に力を入れて、重々しく仰せなされては協ひませぬ」

「爾う爲らうかの、五百石加增の約束反古になることもあるまいかの」

「其時は其時、又考へもござります、兎角は政姫様御身上御定まらせの上の事、御懸念なくなさせられ下りませ」

「何事も政姫様御爲め、わ家御法度を破るは好いことどもわるまじきが心を鬼に致すわの、あなた忠義を龜鑑に!て、私も一生懸命樣の行末守るわの」

「その御覺悟肝要、樣の御出世はやがてあなたの御出世でござります」

秋の日は落ちて、庭に蟲音消しう聞こゆ。

京城新報

商議問題の斷案

商業會議所の任務は言ふ迄もなく所在地の商工業の發達を圖るに必要なる方案を調査し、是を一般に發表し其の實行を要し、又商工業に關する法規の制定改廢施行に付き意見を官廳に開申し、或は官廳の諮問に應ずる等、總て商工業の進歩を劃策すべき[illegible]を要す。

思ひ見よ我會議所は半島各會議所中の一位を占め常に他の模範及び指導者を以て任ず、然るに今回の會頭問題に因つて醜を世間に曝す、豈歎ぜずべからずとせんや、然れども過去は過去にして、現在は現在なり、吾人改善の望みは實に現在に存す、世の商議の問題に急を止むる者必らずや吾人と意見を同ふすべきことを信ず。

東京電報（十二日發）

▲入超一億萬圓　六月上旬の外國貿易は輸出額千三十萬二千餘圓、輸入額千九百七十六萬二千餘圓にして一月以降累計を見るに輸入超過は實に一億一千三百八萬九千餘圓の多額に達したり

▲上院議員當撰者　貴族院伯子男爵議員の總選擧は豫定の如く十日華族會館に於て擧行せられたり當日の警官は正門に立て萬一を取締り門の內外は各派の幹部員其他の出入頻繁なりしが貴族院事務局よりは十數名の書記官及書記を派して開票事務を補助せしめたり先づ伯爵の撰擧を行ひしが管理者及河村、寺島、松浦、萬里小路、柳澤の各立會人等選擧場に參集九時卅分投票したるが其結果は左の如し

當選者

正親町實正、大原重朝、萬里小路通房、清棲安成、清閑寺經房、德川達孝、吉井幸藏、松浦厚、寺島誠一郎、柳澤保惠、柳原義光、河村鐵太郎、後藤猛太郎、松平昌敬、島津忠麿、兒玉秀雄、松平直行

以上

此の結果に據れば官僚派非同志派の次點者林博太郎伯三十二票次郎伯二十八票にして其他次位に在る他の二伯との間に於て自然的次點者の競爭起らんも次位の當選者林伯は兒玉伯十三日迄就任の申出なき時は林伯次點者補充當選となるべし

雜報

▲罹災救助基金　內務省にては道府縣に於ける罹災救助基金の增額を奬勵しつゝあるが最近の調査に係る基本財産現在額は總計四千百三萬九千七百六十七圓なり

▲平年作以上　本年米穀の作物は旱魃水害ありしも全國を通じ平年作以上の見込なりと農商務省當局者は語れり

●鴨綠江架橋と關稅問題　總督府　鴨綠江大架橋工事は本年の天長節迄に略々竣工を見るべく滿鐵會社の安奉線は四十五年三月迄に竣工の豫定にて工事着々其の步を進め本年內には大部分の開通を見るに至るべし左れば滿鮮の完全なる連絡も近く實現せられ旅行及産業上に一大便利を亨くべし然るに國際河川たる鴨綠江の左右岸を觀るに右岸（滿州）安東縣は稅關及渡江會社並びて河岸に在り安奉線は稅關附近に基點停車場を設け左岸（朝鮮）新義州は稅關及營林廠製材工場附近　京義線の終點停車場を設けあり兩國稅關は該所に於て各輸出入品に對し賦課しつゝあるを以て滿鮮連絡後は滿鮮の陸路貿易規定に改正加ふべき必要を認め現在の輸出入稅率及通關手續又は稅關の位置等に付目下當局者は夫れ〳〵調査中なりと云ふ

●府尹會議諮問　府尹　會議は引續き十二日午前八時より寺內總督山縣政務總監各部長官各府尹關係局課長列席の上開會前回の內地人自治問題諮問を了し更に各國居留地問題に付總督の諮問に答申する處あり午後〇時三十分散會したり

●府尹會期延長　十二日を以て終了の筈なりし府尹會議は未だ諮問事項終了を告げざるを以て十三日も引續き午前八時より開會すべし

●朝鮮貿易額　總督府調査に係る六月中朝鮮貿易額五百九十萬三千八百十圓にして內輸移出額百七十一萬六千二百四十七圓同輸移入額四百十九萬七千五百六十三圓なり即ち輸移入超過二百四十八万一千三百十六圓なり

●總督の東上期　寺內總督は多分本月二十八九日頃東上せらるゝならんと兒玉秘書官は語れり

●鮮人士官校入學　今回陸軍中央幼年學校を卒業したる朝鮮人留學生總計二十三名にして何れも成績良好にして就中尹相弼は優等にて恩賜の銀時計を拜受したり而して卒業生は全部進んで陸軍士官學校に入學の手續中

●韓一銀行上半期の成績　……金支配人の談……　本期間の經濟狀態は前期の好況に繼いて年來益々膨大且つ隆盛なる形勢にして其の緊縮せし悲境を蟬分脫去したるものゝ如し一般穀價は昨冬來本期間を通じて高價を支持し恩賜公債代金及利子金の支拂はれたるもの四百餘万圓以上に達し不動產の賣買盛んに行はれ內地人の土地買上げ及び土地に對する放資に因つて流入せられたる資金約百萬圓を算し其他公私經營の土木建築工事盛んに行はれ一時氣遣したる麥作の三月以來好況となりしさにより購買力の增加に伴ひ輸移出入貿易漸次增加し隨て資金の供給豐裕となり同時に穀物貿易建築工事及其他諸般の新事業に要する資金の需要亦繁忙を致し其の調和極めて穩全なるを得たり以上の如くなるを以て當銀行一般取引は頗る繁忙にして隨て近來稀なる好成績を占めたり即ち本期純益金二萬八千五百九十八圓にして前年度同期の一萬五千二百八十圓に比すれば實に一万三千三百餘圓の增加を見預金に於て三十萬二千餘圓を貸金に於て二十九万九千餘圓の增加を示せり尚當行は來る二十二日午後二時より鐘路京城商業會議所樓上に總會を開き上半期決算報告及利益（約一割以上）配當を行はんが爲め目下準備中なりと云ふ

●群山通信（七月十日）

▲去る六日以來の雨は近年になき豪雨にて今朝漸く晴を放ちたれど全く五日間々斷なく雨降り續きし爲め當港附近及江景方面は非常の出水にて處々によりては增水一丈にも及びしとの事に候

▲之が爲江景大田間の電話は不通となり又同方面より來る郵便物の如きも亦兩三日來不着となり加之本日開通式擧行の筈なりし太田論山間錦江の上流なる論山に近き鐵橋は出水の爲め破壞せしとの風說あり果して事實なりとせば當事者が折角是迄非常なる苦心の結果漸く竣成せしものを開通間際に至り哀れ出水の爲め破壞せられしとは實に氣の毒の極に有之自然開通式も延引せらるゝに至る可きかと存ぜられ候又臨益水利組合實山里貯水池の堰堤池水汎濫の爲潰決せしやの風說ありしも事實に無之樣聞及候

▲當地方は去年の雨期にも矢張り同一の災害に罹りたれば本年は人々大に警戒を加へ居りしものゝ雨のみは實際防止するに途なく異に致方なき次第に有之候

▲出水地を視察して歸りし人の談によれば江景及程甲附近其他出水の區域は頗る廣大にして處によりては稻田の浸水四五尺にも及び一望漫々たる大湖水を現出せるの觀あるは雨さへ止まば例年の雨量は多かりしにせよ兎に角去年に比し其期間短かければ稻作には何等の傷害なかるべしとは先づ以て何よ當地方の仕合に有之候

▲如何に雨期とは云へ所謂霖雨連日不開室內に在るも外に出るも見るもの觸るもの皆悉く濕潤の氣を帶び心身共に萎靡して其懶きこと言語に絕し候

▲斯る折に際して吾人に慰安を與ふる唯一の機關は新聞に有之候へども其新聞が郵便物不着の爲め（群山日報は休刊し新聞なければ）內地よりは申すに及ばず京城より仁川より釜山より將た又太田よりも來らざる爲め愛五六日間と云ふものは社會の出來事に對し全く寸前暗黑實に兵糧攻に遇ひしよりも苦しく現時の社會に於ては新聞が如何に必要缺く可らざるものなるかを經驗致し候

▲曩に報道せし當港築港問題は總督府に於ても愈々解決の運びに至りしものと見へ今回技師を派して實測に着手せしむることゝなり昨日技師一行六八の到着は雨期沈滯せる當港人士の人氣を刺激して一般に何となく景氣付る樣は多年熱望せし築港問題が眼前に解決せらる可き端緒を目擊せしことゝて左もあるべきことゝ思はれ候（叉水生）

●新潟視察團來京　新潟汽船度津丸を艤し浦港を經て北韓各港を視察中なりし新潟毎日新聞社主催の視察團員一行二十名は十一日來京巴城館に投宿十二日夜新潟縣出身者百五十餘名の歡迎會に臨む筈なりと

●佛國艦隊員歡迎　寺內總督は十三日午後目下仁川入港中の佛國艦隊乘組將校を官邸に招待し晩餐會を開く由なり

●軍司令官答禮　仁川入港佛國東洋艦隊司令官カストリ少將は十一日大久保軍司令官を訪問せし爲軍司令官は十二日少將をアストルハウスに訪問

●雲母會社重役會　賀田河北岡等諸氏の經營に係る朝鮮雲母會社は十日下關市川卯旅館にて重役會を開催朝鮮側株主代表者として仁川の頴原氏出席す

●漢城銀行總會　漢城銀行は二十日廣通館樓上にて總會を開き上半期決算報告及利益配當を決し支店設置に就て協議をなすべしと

●仁川電氣配當力　已報の如く仁川電氣株式會社にては十日重役會議を開き上半季の利益配當年に付四步と定め來る三十日の總會に付して決定すべき由なり

●仁川築港工事入札　一部　仁川築港工事の第一着として湖止締切堤の築造は來る二十五日稅關工事課仁川出張所に於て請負入札に付する事となり夫々請負業者に通牒したるが同工事は指命入札なれば京仁間にて六七名の入札者あるのみなりと云ふ因に竣工期間は四百八十日間なりと云ふ

●京釜間電信不通　南鮮地方は非常の暴風雨にて十二日午前十時頃より京城釜山間の各電信線に故障を生じ正午頃には大阪線を除くの外京釜間各電信線は全部不通となり京城以南及內地方面への通信は總て大阪線一線に依りて通信しつゝあり從つて三四時間若くは八九時間の延着を見るべしと其他京城群山間京城木浦間の電信線も不通となり目下釜山を迂廻して通信しつゝありと

●洛東江氾濫　慶南洛東江增水二十一尺に及び密陽以南三浪津間一面に浸水同地有志は罹災民救助に努めつゝありと

●錦江の增水　忠淸南道錦江增水のため公州鳥致院間の錦江渡船場は一回二時間を費し辛ふじて渡船をなしをれりと

●荻野氏の訪問　新潟毎日新聞社長荻野左門氏は別項視察團に加はり來京十二日本社を訪問せらる

●中村檢事長の視察　京城控訴院檢事長中村竹藏氏は近々天候恢復を見計ひ約二週間の豫定にて北朝鮮咸興及元山の裁判及監獄事務視察として出張すと

●岡本技師の歸省　通信局の岡本工務課長は約一ヶ月の豫定を以て去る九日鄕里石川縣へ歸省したり

●分隊開設一週年　京城第二憲兵分隊は十二日が同隊開設一週年に相當するを以て同日構內にて擊劍大會を催ふす

寄書　辯妄　小松綠

記者足下

足下は所謂豪放の士耶、將た無恥の徒耶、日常毒舌を放ちて他人を刺傷し自ら省みて疚しとする色なきが如し、昨紙『治外法權』欄に於て僕の前身を以て新聞記者なりと妄斷し更に本物の記者たらむことを勸むるが如し、僕少小文を好み新聞に雜誌に胸中の磊塊を投寄したること一再に止まらざりしと雖も未だ曾て新聞記者たるの榮職を瀆したることなし、併し森博士の鷗外としては文士たり林太郎としては軍醫總監たるの意味に於て僕を新聞記者と御認めあらば僭越ながら此の芳稱を甘受すべし但し茲に一言せざるべからざるは故井上毅氏又は古澤滋氏の如き新聞記者ならざりしも名文家たりしなり、文章は新聞記者の專賣なるかの如く自惚るは以ての外の曲事なり。

足下は次ぎに總督の訓示などは一人か二人の手に成るが如く妄斷せり、是は畢竟官廳の仕事振りを知らぬが故なり凡て公文なるものは責任者に於て意圖を授け補助機關ありて之を整理す、即ち書記官とは口授筆記の役なりと知るべし、今頃の役人はドレもコレも一ト通り意味の通ずる文字を作るの技に於て斷じて新聞記者に讓るものに非ず、足下が他の平凡なる文章を覩て忽ち上手なりなど感心するは日頃餘りに役人の腕前を侮蔑し居るが故なるべし、新聞記者は文に淫して自惚るものなりとかや、足下も其御多分に洩れざる乎、去りとては亦陋なるかな（十[illegible]酒後茶前）

公人私人

▲山岡義五郎（釜山稅關長）十一日[illegible]

▲千賀鶴市（檢事）十一日不知火へ

▲川西光之助（憲兵大尉）十一日山本へ

▲隈部親俊（憲兵大佐）十一平壤行

▲安田繁太郎（判事）十一日義州行

▲羽生慶三郎（判事）十一日釜山行

▲藤田松太郎（電氣會社事務取締役）十一日釜山行

▲長野武一（警部）十一日太田行

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
七月十二日	一三七、〇九八、七一〇	九九〇

▲治外法權▼

大隈伯曰く故毛利敬親公の傳記が出來た、それには先祖が大江となつて居て、鎌倉覇府の議に參したとあるが、それ丈けでは勤王にならないので、實は皇室の御系統を含んだ事に書いてある、ソコで勤王になる、流石甘いものだ▲トコロが薩は忠臣楠公を攻殺したものが先祖となつてゐる上、薩人は長人ほど智慧が無いので、甘く行かない、と▲中央亞細亞の某マホメット國の敎王が今度我陛下に請願の筋があつて使節を寄越したが、其使節は何か非常な權限を委任されて居るらしいとの事だ▲中央亞細亞のソルタン、彼れが我陛下に對つて何事を請願するかは記者の知るところ、併し今上陛下の御仁德が亞細亞の諸民族に知れ渡るに連れて種々な使節が、種々な請願を齎して來る事は必定である▲只だ恐る、霞ケ關は今度來たソルタンの使節を何と見たか、亦た今後來るべき使節を何と見るか▲尤も國際關係に於ける我國現在の位置から云へば、餘り大陸に手を擴げるのもワルイかは知れぬが、サリトテ折角來た使節に使命を辱かしめる事の無い樣にシタイものだ▲統監府の伯兒玉秀雄が同族から互選されて上院議員になつた、秀雄、性洒脫、頗る乃父藤園を寫す、而かも政治を解する乃父の如きかは疑問だ▲一昨日の商議總會は山口外二名全數三名の出席であつて流會になつた、所謂山口派十六名はナゼか揃はなかつた▲昨年本紙の唱導せる神社創設の事がアチコチに實現されるのは結構な事で、今度新義州へは平安神社と稱するのが出來た▲序に記す、記者の希望は、ドコの神社は形勝の地、即ち景色の好い所に建てるようにしたい、ソウして神社を中心として大々的に公園をするようにしたい。

▲最高三十三度▲最低二十八度▲正午三十二度

藝妓健康診斷の議と各方面の意見

藝妓に健康診斷を受けさせると云ふ議が傳はつて以來其の側の恐慌と云つたら凄まじいものだ、無理だ人權蹂躪だなぞと憤慨するもの、身に覺へがあるから受けても宜しいけど軍醫さんぢやア堪らないつて新町の娼妓さんですら檢査と云ふ條へて御座る、まして初めて出會す妾達は恐いと云ふもの抔樣々である、從つてでげす從つて局外者にして而して深い關係のある客筋の中にも賛否の論がある、此の時に際りて之れを紹介するてど豈に無益の業ならんやでしよう

青木堂主人 久保田金次郎君

ヤ、恐れ入りましたナ何うも、此れが京城目下の商況とか何んとか云ふのなら手前の方の畠にありますが花柳界の問題と來ては一向何うも不得手の方ですから、夫れは夫れとして本店の方から今日タツタ今着荷しましたよれコに適うと云ふウヰスキーが後刻た届け……エ白ばツくれるナは恐れ入りますな全くの所何うも其意見なんてものはエへへへへ、其の「エへへへ」たるや大に意見ありげなる笑方だ、御免蒙るとが出來れば格別、出來ないのなら致方がない、と口を切つた、「反對です」此の一語に盡きます、藝妓は多くの客に接するから此點即ち健康狀態には自ら常に深い注意を拂ふて居ます、シーピー氏のた話の如く健康診斷を受けたる藝妓は公式の宴席に侍らせる事を憚らねばならぬと云ふ不都合を來す、成程藝妓の中には枕金を取つて私娼をする者のあるは事實ですが此れは一種特別の關係で彼の娼妓の夫れとは大に趣を異にする、而して夫れに相當處罰の法がある、然るに其法を用ゐずして――一度も――藝妓は私娼だ〳〵と途聽塗說斷して直ちに健康診斷を强ゆると云ふのは卑怯でしよう、夫れでも是非とならば藝妓其の者の自由に任して統一たなんて事を仰云らず診斷書を提出せしむる位の處が穩當だらうと思ひます。

井門本店政子事 印南鶴子

オヤツ、又入來しつたね、能く左樣迷子に成つた人魂の如にフラ〳〵フラフラとフラ附けますね、さは云ふものの夫れも健康だからよ、れ芽出度う御座いますハアハアハア、エ能く喋る女だつて仰云るのれ蔭樣と皆さんが左樣云つて褒めて下さいますよ、アラ褒めてるんぢやないつて、ヂヤ何んですか貶して居るのですか、アラ、厭だよ妾し只つた今まで褒められてるんだと斗かし思つて居たのにサ、ハアハアハア、ウム彼の健康診斷嘘でしよう一寸ソラれ化エーてな調子で威喝して試たんでしよう、エ實際ッ、ヤー驚いた眞實なんですかへエー、憚り乍ら妾なんぞは其樣事は無いしれ客樣に不都合の無い如に丈けは用心して居ますワ、夫れに月に何回と定めて診察されるとなると經濟上の影響が害りません、官妓制度を再興して特別會計に依つて國庫の負擔となるては理由にも參りますまい、全體何の爲めに小料理店及び待合をた廢止になつたのですか、藝妓の內の或る者等が私娼を爲るからと云つて全體に檢黴を施行すると云ふことの無理だとか何んとかの理窟は別物として此れが直ちに私娼認許と云ふことになります、だからと云つて行らない妓は行りますまいが行る妓が多くなり且大ツピラになつても手の着け樣がありますまい、夫れだに結局小料理店及待合を市中に散在させて居つた時さ大した差は無いぢやありませんか、此の位の見易い道理がアチラに判らん理由はありませんよ、妾の考へでは之れは貴君の社で藝妓であつて私娼をする者を戒め愼ましむ爲めにね「注意せぬと斯う成る時が來るぞ」と警戒して下さる事と解釋しますね、夫れが最も當を得たる現代的の解釋であると堅く信じて疑いませんね、万々一にも事實に成つたら何うすると仰云るの、何うも斯うも有りませんね、執るべき道は一つです、オヤ左樣なら

東方前頭 有明

李太王訴訟公判

▽九月十五日と決定

李太王殿下が去四日辯護士小川平吉原嘉道の兩氏を代理人として米國人ヘンリー、コールブラン氏を相手取り金五十二萬五千圓取戾の訴訟を京城地方裁判所に提起し同時にコールブラン氏の横濱に於ける銀行預金の差押へを申請せる由なるが右訴訟事件の公判は愈々來る九月十五日午前十時京城地方裁判所に於て横田裁判長の係りにて開廷する事に決定し原被兩告に對し夫れ〳〵通告を發したりと

解放せられる娼妓

▽漢城病院の一大英斷か ▽入浴に伴ふ外出の自由

京城[illegible]を新町遊廓內の病院經營より[illegible]病院は一の檢査場となりて新[illegible]院としての實體が我が民團所[illegible]漢城病院（經營者は[illegible]なるも）に移りたることは既[illegible]而して記者は一般の紳士淑女[illegible]べき同病院が如何なる施設を[illegible]の上に加ふるにしても漢城病[illegible]下に娼妓入院を[illegible]の不可なるを言ひたり然るに[illegible]らざるが不幸にして聽かれず現在に於いては入院患者數約五十名に上つて居ると云ふ而して漢城病院は其の入院料を一日七十錢とし飲食及び入浴は患者の自辨たるべしと云ふことにしたので百弊茲に生ずる事となつた、彼れ等は飲食の自由を得た、天丼、鰻丼、すし、そば好む所のものは一擧手一投足の勞いみ、入浴自辨と云ふので外出の自由は與へられた、大和湯、明金湯、三ケ月湯、南山湯、日の出湯と彼れ等は其の時其の場合に都合の好い所へ行つて良家の子女と混浴して居る、歸り途には各種の飲食店に登樓して間食を恣にする敢て馴染客と同伴だとは云はないが其の間食を恣にせる

通行人に冷評的の言語

ことは事實である、從つて彼の附近一帶の地は警戒地區となつた、去る十日の午後六時半頃も六七人の娼妓は裏門の所に積み上げられた石塊の上に立つて通行人に對して露骨に大膽にも冷評的の言語を頭の上から浴せ掛けた、我れに夫れだから他人にも左樣だと斷言する、摺れたることを我れの如きには何等の增減は無いが左樣でない男女に與ふる惡影響は頗る大なるものがあらう、更に病院に對して斯う云ふ不平がある洗滌は一日一回位で服藥のみであるから入つたらナカナカ出られぬ即ち手が回ら無いのだと併し此れは一部樓主の嘆聲であるから果して事實か何うかは保證の限りでない此所には只斯う云ふ評判があると云ふに止める、新町病院は民團から遊廓に下げ渡し總監部監視の下に遊廓が經營する事に決して目下增築設計中だと云ふが一日も早く其の落成を見んことを希望するものである

東方前頭 上ヶ汐

安命根等の公判

▽去る十日に引續き

安命根外十七名の强盜及强盜未遂被告事件第二回公判は十二日京城地方裁判所刑事部大法廷に於て公判開廷せらる當日は暴風雨にも係らず傍聽席は立錐の餘地なかりし被告辯護人大久保木尾外七名出廷掛官一同型の如く着席裁判長は前回に引續き公開す可き旨を告ぐ被告金鑑の辯護人より利益ある證人喚問申請あり之れに對し伊藤檢事は明白に不必要の意見を述べ裁判長は合議の上却下したり因而伊藤檢事は立つて本件は起訴狀に基き第一より第四に至る犯罪に付審理を求めたるものなるが被告等は犯罪事實を否認なせしも司法警察官が充分なる搜查を終り檢事局に送り檢事は更らに進んで綿密に搜查し證據充分と認め起訴したるものなれば明白なる犯罪なり而して第一より第三の犯罪は暴行脅迫を以て多額の金錢を强奪せられたる被害者あり併合後の今日にかて如斯危險なる惡漢に對しては嚴重なる處罰の必要あり云々と事理明晰に論告し安命根を終身懲役朴晩俊、裴敬鎭、李承吉、韓淳稷、金鴻亨、金龍植、金益淵、張倫根、揚星鎭、金庸濟、都寅權、元行燮を各懲役十五年に崔明を各懲役十年に高孝守、韓楨教、朴亨秉を各七年に崔益馨を懲役五年に求刑ありて通譯終るや各被告人は言暴を吐き暴れ出し一時法廷を騷し傍聽席にある婦人の一部分、アイゴー〳〵と泣き出したるより婦人に退席を命じ鎭りて後各辯護人に對し公安を害する辯論を爲さぬ樣注意ありて各辯護人は交々立ちて自己の擔當する被告に付無罪論を主張し何れも大同小異なりしが木尾辯護士は政治及法理論より刑事政策に及び大久保辯護士は事實及外國に於ける法理論より被告等が警務總監部に於て拷問若しくは釣り上げられ無實の事を自白したりと云ふも常識を以て判斷すれば今日人權を重んぜらるゝ總督の治下なる總監部に於て斯る事なき筈なり被告等は監禁の苦痛を感じ意になき事を自白したる云々と頗る痛快なる辯論を爲したり

東方前頭 陣立

巡捕廳長檢擧さる

▽惡漢保護の醜惡露現

昨紙所報の淸國人一八賭博犯人數名は既に仁川署の阿比留巡査の手により縛に付きたるが更に有力なる連累者二人を檢擧したり原籍山東省登州府生れ當時仁川支那町巡捕廳々舍住張言明（三三）及同所孫不堂（三五）にして張言明は元巡捕廳長とし孫は巡捕として就任しつゝありしが日韓併合以來同廳の廢止と共に解任せられ現に中華會館の雇として營業税其他の取立に從事し從前の廳舍に住居なし居りて從來より彼の王登德の惡徒に與し自分の官途に在るを奇貨とし彼等の徒羅中より一日三圓若しくは二圓宛のテラ錢をはね自己の懷を肥し尙地方より入込み來りし惡徒を潜伏せしめ又は追手を攫れて窃に他に逸走せしむる等の保護をなして多額の金圓を捲上げては贅澤三昧の生活をなし張は本紙三月八日所報の仁川猫島壽樓の酌婦すい子を身受し尙他人の名義を以て客棧を開業なし居る等にて惡錢は積んで巨額に達し居ると云ふ然るに天網遂に免るゝ能はずして捕縛せらるゝに至れり依て在留淸國人は平素彼等の爲めに苦しめられし事迚今回の檢擧に付頗ぶる痛快がりつゝありと云ふ

●控訴して無罪

佐原藤佐、大川十右衛門の兩人は詐欺取財事件にて公州地方裁判所にて有罪の判決を受けしを不服として控訴し京城控訴院に於て審理中なる事は既報の如くなるが該事件は公明なる裁判長其の他掛官の審理の下に岡田木尾大久保の三辯護士綿密なる證據蒐集の効果とに因り無罪の宣告ありたり

●嬰兒壓殺事件

龍山神明町三十九番戶手塚源三郎方山口縣人靑木ワサ（二三）が姉の夫なる手塚源三郎と私通し懷胎本年六月十七日分娩したる嬰兒を壓殺したる事件は豫審終決し兩角檢事の手にて殺人犯として公判に付せらる

●藤井太郎の公判

既報藤井太郎安倉兵三郎の詐欺取財被告事件第二審は京城控訴院刑事部法廷に於て補裁判長山口原の兩陪席寺田檢事立會の下に來る十七日公判開廷せらる可く被告辯護人として大久保辯護士出廷す可しと因に被告等は保釋中に付身柄の拘束なしと

●横領犯人の逮捕

明治町一丁目布川方雇人岡山縣人谷本長一（二三）は釜山西町四丁目五十九番戶本田小次郎方に雇はれ中金十圓九十錢を横領し當地に逃げ來り居りしが南部署に捕れ檢事局に送らる

●鮮人の亂暴

仁川府內洞二十六統四戶船乘業金春成（三十）は十一日午後零時十分頃酒氣を帶び內洞二十三統五戶吳寨成方に入來り擅に亂暴をなし門戶を蹴り金三圓二十錢に相當する損害を與へしより直ちに京町派出所に訴へられ本署に引致せらる

●盂蘭盆大施餓鬼並說教

花草町一丁目曹洞宗兩大本山別院に於ては十三十四の兩日午後八時より十五日午後二時より一般信者の先祖追善供養の爲め大施餓鬼を修行 田中道圓老師の說教並に隨身衆僧の和讃及宗意問答等あり

●演藝だより

●歌舞伎座 此の頃のドシャ降りにも頓着せず打ち續けて加かも相當の客足を引く木村猛夫一行の人氣は大したものなり之れが天氣であつたらの嘆聲は座方より洩れ客の口より洩れて居る其處で十三日の替り狂言は故尾崎紅葉作『命の安賣』全十二場一同大車輪にて相勤むべしと云ふ

●浪花館 合併演藝會十三日の演物は鮫みひり、淸元四海波、比良の暮雪、京鹿の子、廓の穴探し、眞鶴崎、二十分の一、滑稽兆民聖、頃曲質屋席